松阪市男女共同参画情報紙

ひまわり

第18号

2015年3月発行

松阪市男女共同参画シンボルマーク

家族のかたち

多様化する現代、いろいろな家族形態が増えています。
今回は、実際にお話しをうかがい、さまざまな家族のかたちを掲載させていただきました。

男性が語る母の介護

本人74歳（独身）
長女（養子29歳）
長男（養子28歳）

母が88歳の時、定年まであと4年を残し、56歳で母と過ごすこと、最期を看取ることを選択して教職を辞した。平成17年96歳で亡くなるまでの半年間は転倒したことがきっかけで、意識もなく 寝たきりの状態となり、自宅で献身的に介護する毎日が続いたが、それまでは散歩や買い物など積極的に連れ出すなど、ご近所でも評判の仲の良い親子だった。また、大学進学を望む甥と姪を引き取り、二人とも卒業、自立させた後は、地域活動など充実した毎日を送っている。

1 親を介護していてつらかったこと。また、施設へ預けるという選択肢は

お風呂に入れるのが大変だった。つかまることができないので倒れてしまう。ずっと支えたままで、手を離したら溺れて死んでしまう。「介護は先の見えないトンネルを通っていくようなものだ」と新聞の投書にあったが、まさにこれやなと思った。当時、介護制度が出来たばかりで、施設は管理的なイメージがあったのと、近所の人から意識もなくなってるのに面倒見るのはえらいぞと言われても、本人はもの言わんだけで全て分かってる気がして、えらいながらも人に預ける気にはならなかった。亡くなってから後悔したくなかったので。

2 一人で介護していて良かったこと、親からの反応

職を辞して初めて88歳になった母を旅行に連れて行ってあげることができて、学生のときに言っていた約束をやっと守れた気がした。88歳を過ぎると認知症も出てくる。散歩や買い物には常に私が付いて、時には手を繋いで、そうしてあげたいから勤めを辞めた。母はそんな私に感謝してる、ありがたいと思ってる。ありがとうと言葉に出してもくれていた。ものすごく慕ってくれてたし、幸せだったと思う。

3 現在介護している方へのメッセージ

最期まで介護したことに誇りを持っている。良かったと思う。人任せにして何かあれば恨みに思ってしまう。そう思いたくないからすぱっと仕事を辞めた。今の介護制度は段々と成熟して良くなっている。施設も良くなっているし、職員の体制も思いやりをもったお世話で良くなってきている。市の職員を信じていろいろと相談してみてはどうか。

4 ご養子との親子関係について

2人とも大学を卒業してそれぞれ就職して家も出た。長女は結婚して夫と相談の上、近所の畑を買って家を建てる準備をしている。私のことを考えてくれてのことだと思っている。

5 今後、増えると思われる子どもを持たない家族、独身者へのメッセージ

私のようなこんなに幸せなケースは偶然だと思っている。世間的には里子の制度などいろいろあるが、まだまだ難しい。自分が介護される立場になったら施設に入れてもらえたらいいと今は考えている。

6 今後、していきたいこと

小学校の学窓会の会長をさせてもらっていて、2年に1回文集を作っている。その文集をしかるべき文化的な内容に編集して地域の歴史や文化を次の世代に送り続けていくのが最後の仕事だろうか。

家族構成

父子家庭

父親37歳・長男高校1年生
二男中学1年生
長男5歳、二男2歳のときに離婚

母子家庭

母親47歳・長男22歳・二男20歳
三男18歳・長女12歳
長女2歳のときに離婚

1.家事・育児などでの困った事

子どもの保育園の送迎。
病気になった時など、仕事が休めなかったので枕元にスポーツ飲料を置いて家で寝かせておいたこともある。子どもたちには、家事は小さい頃から教えてきた。

金銭面で大変なこともあった。
長女が保育園に通う間は、元夫の実家に送迎を頼んでいた。仕事する私に対して言葉でも気遣ってくれ、子どもたちで食事・洗濯・掃除をこなしてくれるようになった。

2.周囲の協力体制

PTA 活動や地域のソフトバレー等に参加し仲間作りが出来ていたので、練習時に子どもを連れて行き、見てもらっていた。PTAや地域の役員は断らず引き受けた。そこでの仲間や会社の人たち、実家（市外）の母親が協力してくれた。日頃の助け合いが自分に戻ってくると思った。

仕事をまわしてもらったり、住居を格安で提供してくれたり、大変なときに日頃関わっている人に助けていただいた。ありがたい気持ちでいっぱい。

3.子どもたちとの関わり方

親子であり友人。
今後、自立できるよう自分のことは自分でするようにさせている。相手側の視点に立って考えるように日頃から言っている。父子家庭だから ...と言われないように人並みの生活はさせているつもりだ。

母であり父である。家庭は小さな社会なので、子どもたちが社会に出たときのために、たとえ家族であっても目上の人には感謝することを教えている。

4.子どもたちの気持ちを聞いた事はありますか

離婚しても名字を変えたくない、学校を転校したくない、この二つの条件を出された。

5.父親・母親との関係

離婚後母親とは会っていない。

子どもたちは、父親のことも大好きで、今でも交流している。自分の気持ちを子どもたちに押し付けたくはないので、父親と会うことについては全く気にしていない。

6.後悔した事はありましたか（どんな時）

離婚より結婚したことに後悔している。
若くして結婚したので、相手は母親になりきれていなくて子どもより自分中心の生活をしていた。離婚後子どもを任せる気持ちは一切なかった。

一度もない。

7.良かったと思うとき（どんな時）

自分に自由がある。

離婚の原因が、父親の実家の借金だったので、子どもたちに借金を残さずに済んだのが良かった。

8.離婚を考えている方たちへ一言

離婚を考えた時点で、もう元には戻れない。夫婦間で努力や、やらなければいけないことをしたのか。

離婚を考えて迷っているなら絶対に止めなって言うと思う。もし離婚したなら、子どもたちが父親に会いたいときは会わせてあげて。また、子どもたちには日頃から「愛しているよ」とか、「お母さんの所に生まれてくれてありがとう」とか、心で思っているだけじゃなく口に出して言ってあげて。

9.子どもたちへのメッセージ

人に迷惑をかけずに自分の行動に責任が持てる大人になってほしい。

私を支えてきてくれた子どもたちへ
お父さんとお母さんを選んで生まれてきてくれて、本当にありがとう。

10.行政など公共機関への意見や提言

手当て (お金) では支援にならない。
手助けの支援 (保育園の送迎) が必要。

最近は、夜間でも対応してもらえることもあるが、離婚の際に色々な証明書が必要になり、自動交付機は本庁にしかなかったのが大変不便だった。各振興局にも設置して欲しい。

子どもたちが自立出来るように、簡単な料理等を教えたり、ごはんが炊けるようにした。毎週日曜日には子どもたちと銭湯に行っている。子どもたちの成長に応じて生命保険の見直しをしている。

今春、２人の子どもが就職するので、娘と２人の生活を楽しんだ後に子どもたちが結婚して子どもができて、時々孫に囲まれて暮らすのが夢。

嬉野宇気郷地区へ移住されたスイス人家族

本人 59歳 (女性)・長男 33歳
次男 31歳(ヨーロッパ在住)
長女 27歳・二女 24歳・三女 20歳(県外在住)

スイスの田舎町で生まれ育ち、看護師として働いていた時に日本人のビジネスマンと知り合い、25歳で結婚し、二男三女に恵まれました。夫の転勤により、マレーシア、ドイツで海外生活を過ごしましたが、子どもたちのことを考えて落ち着いた方が良いと思い、28歳の時に夫の生まれ故郷の神奈川県へ来ました。

神奈川県では、子どもを5人育てていることと、看護師の経験を活かせると思い、不登校や引きこもりのある子どもたちを泊まりで預かり更生させる「下宿塾」を夫とともに開きました。子どもたちと一緒に家事や田畑で作物を育てたりする作業療法に10年間携わりました。有機栽培で育てていた影響もあって、より一層、自然に囲まれた環境で生活したいという気持ちが日増しに強くなっていきました。

長男は大工の見習いとして働いています。偶然にも親方が、嬉野宇気郷地区に住んでみえる方であり、空き家があることを紹介されました。12年間探し求めた自然豊かな環境がとても気に入り平成26年4月に古民家を購入し、夫とは1年前に離婚しましたが、長男と二人で楽しく暮らしています。

地域の方々はおおらかで、いろいろと教えてくれたり親切にして受入れてくれます。台風が来た時に消防団の方や地域の方々がお互いの安否を確認しにいくことが温かいなと思います。地域の祭りがある時は、手作りのお菓子 (カレーパフなど)を販売しています。平成26年10月の宇気郷まつりの時は、ステージで長男と一緒にヨーロッパのフォークソングを歌いました。毎月第1月曜日には地区で集まるお茶会に参加して交流を深めています。

今は、自宅を快適に住みやすく改修したり、借地を開墾しながら野菜栽培をしています。親子で協力し合って、自分たちが出来ることを少しずつでも成し遂げたいと思います。

事業報告

平成26年度のキャッチフレーズは、

男女共同参画週間の啓発

男女共同参画週間（6月23日～29日）に合わせ、プラザ鈴2階ロビーにてパネル展示(6月23日～27日）を開催し、松阪駅・伊勢中川駅にて街頭啓発（6月23日）を実施しました。

男女共同参画さしすせセミナー

男女が互いに尊重し合い、心豊かにいきいきと暮らせる
男女共同参画社会の実現を目指し、セミナーを開催しました。

☆「DV 被害女性と子どもの生きづらさ」
西山節子さん
（ウィメンズカウンセリング名古屋 YWCA フェミニストカウンセラー）

☆「知ろうとするより感じてほしい」
親子音楽ユニット RAMO

☆「そしてプロになる～乳がんをバネに…心とからだのケアを～」
徳山直子さん
（三重県乳腺患者友の会「すずらんの会」会長）

☆「感謝～人との繋がり～」
Nory

☆「そっとやさしく」
長島りょうがんさん
（音楽工房「夢のかぼちゃ」店主）

男女共同参画松阪フォーラム

家庭・職場・地域等あらゆる場面で男女が良きパートナーシップを築き、より良い未来を描くために松阪フォーラムを開催しました。

三重県内男女共同参画連携映画祭2014

【参加者の声】
「私も中2の息子を持つ母なので、子の気持ち、親の気持ち共にわかるので、とても良かったです。」「家族のあり方など、意味深い映画でした。」「いろんな事を知ったり考えることができました。また来たいです。」などの感想をいただきました。
「これからも続けてください。」という声もたくさん聞かれました。

(c)2012「旅立ちの島唄～十五の春～」制作委員会

三重県内男女共同参画連携映画祭2014

◆企画・編集
松阪市男女共同参画情報紙制作スタッフ
角 喜久子　北村真寿美
竹上 育子　長谷川露美
松浦 光義

◆発行 松阪市 人権・男女共同参画推進課

〒515-8515 松阪市殿町1340番地1 ☎0598-53-4339 FAX 0598-22-1055
E-mail: jinkyo.div@city.matsusaka.mie.jp　http://www.city.matsusaka.mie.jp